

## 意見交換会報告書

開催日時	令和6年1月19日（金）午前10時0分 終了：午前11時30分	
開催場所	福祉ふれあいセンター2階 中会議室	
対象団体	共生のまちづくり推進協議会 家族部会	
参加人数	19人	
班構成	C班	上田良治、谷健一、山口俊哉、吉本史宏、澤田昌幸 北嶋章光、寺越和洋
役割分担	司会：山口俊哉 挨拶：寺越和洋（開会）、北嶋章光（閉会）	

### 意見交換会テーマ「障がいの人と家族が安心して暮らせる共生のまちづくりについて」

#### A班（北嶋、澤田、上田）

- ・日頃は障がい者支援施設「青い鳥」に相談している。放課後の預かり施設「希づき」を利用しており、学校、デーサービス、家までの送迎をしてもらっている。送迎費用は事業者が負担しているが、交通費の助成が事業者であればよい。特に白山ろくは距離が遠く降雪対応も必要。
- ・障がいの子供を抱えており、自分の余生の準備ができない。重度の障がい者を預かってくれる施設がないので市営の施設が欲しい。北安田にグループホーム「みらい」、千代野にグループホーム「ひかり」が新設されている。
- ・高齢者は障がい者を抱えていると自分が死んだあとが心配だ。市がもっと関わってほしい。
- ・行動障害（プラスチックや指を噛むなど）で体を傷めるので目が離せない。日中は働いており、その後、佛子園で預かっていたので、自分の時間を持つことができ、気が休まり大変助かっている。
- ・入浴介護が大変。障がい者は成長し、介護者は年老いていくので体力が持たない。入浴サービスの充実を図ってほしい。
- ・障がい者の入浴サービスが少ない。
- ・医療的ケアが必要な要介護者が白山市は年々増加（白山市20人程度いる）している。ろう学校の給食時は親御さんが行っていたが、現在は保健師を派遣していただいている。ショートステイ事業は法人では経営が厳しいことから、市立の施設を造ってほしい。
- ・障がい者の賃金の低さが課題である。就労継続支援A型は最低賃金保障、就労継続支援B型は事業所毎であるが、障がい者への手取の改善（増額）が必要。
- ・災害時における障がい者の避難方法や場所の確保、支援（福祉避難所）また、日中保護者と離れている場合の安否確認の方法など対応が必要。
- ・各施設で災害用支援物資を備蓄する必要がある。

#### B班（吉本、山口、谷）

- ・家族と一緒に暮らしているが、障がい者を抱えており、自分が死んだあとを心配している。（経済的・サービス事業）居住支援が少ない。
- ・グループホームがもっと多くあればよい。

- ・佛子園に行っているが、職員の成り手が不足している。
- ・親が入院したら預ける場所がない。ショートステイやグループホームを増やしてほしい。
- ・グループホームを利用している。365日預かってくれる施設が欲しい。施設職員の賃金が低い。
- ・親が3回入院しているが、グループホームに預けており安心。子供も施設になじんでいる。
- ・子供を施設に預けて働いているが、物価高で生活が厳しい。消費税の減税やガソリン代を安くしてほしい。
- ・息子（全介助）は医療的ケアが必要だが、対応施設が少ないので目を向けてもらえない。施設を増やしてほしい。
- ・通所型のグループホームやショートステイが少ない。施設を増やしてほしい。
- ・災害時の避難に支援員が少なく心配。また、親がいない人もいる。要支援者名簿が必要。
- ・レスパイトを60日使用すると90日間使えない。改善してほしい。
- ・災害時に障がい者の医療的ケアが可能な福祉避難場所の確保が必要。
- ・行政からの施設運営経費の補助拡充が必要。

備 考	
-----	--